

河内地区・下組自治会

「伝統的な地域協力が構築」

●加入世帯 132世帯 ●加入率 97.8%

活動内容

下組自治会は、明治43年に創設されて以来、長年多くの、先輩方々の努力により、今日まで活動が続いてまいりました。

近年、地域づくりの活性化、自治会内の親睦の強化の一環として、「下組まつり」を開催。今年で第4回目の実施を予定（平成25年10月27日）しています。

1) 下組まつり

平成22年度より開催（原則、毎年秋期の10月）し、平成25年10月27日、第4回目を開催いたします。

この間、東日本大震災救護に2回程、バザー収益金を寄付いたしました。

また、昨年度の第3回「下組まつり」において、「天棚」の44年ぶり復元・披露で、多くの感動を得ました。

2) 河内地区体育祭

毎年130名以上から参加し、平成24年度の体育祭では、第4位の成績を上げました。団結実行

3) 子ども会の花壇

毎年実施。ごみ収集所を配置、徹底し、町内の美化運動に協力している。

高い加入率を維持する秘訣

各11班からなる下組自治会事業活動に、積極的参加で高い加入率を維持しています。

伝統的な地域協力が構築されています。



河内地区の彫刻屋台と天棚 ⑱

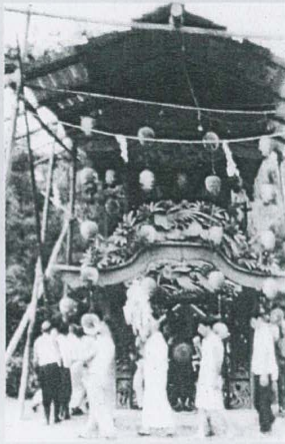
下組 天棚

当天棚は前面一階部が前に出ている、突き出し形白木彫刻天棚で、古老よりお聞きした話によると、「下組には文化文政年間ころの天棚があったが、傷みがひどく江戸末期か明治の初めに新しく作りかえた。古い彫物の一部は後に天王原へ売った。」とのことでした。

近年では昭和25年と同43年に組み立て、天祭行事(祭り)が行われたそうですが、その後組み立ては行われていません。平成5年8月13日に、彫物のみ公民館前に並べ虫干しが行われ、これを機会に彫物等の調査をさせて頂きました。彫物には製作年号などの記録は見あたりませんでした。天棚製作記念に彫物師が残っていたと言われる「天狗の面」があり、この裏面に「慶応三年十一月」の墨書が見つかり、これが天棚製作年と見られます。

作者について大工は分りませんが、彫物師は彫物裏面に小さく「大出」の刻銘があり、鹿沼の彫物師神山政五郎の一番弟子今市の大出常吉で、二人の合作の可能性が高いと思われます。

彫物の題材は波に龍、松に鷹をはじめ、梅、ぶどう、花鳥など多種にわたります。



住吉 晴

河内地区の彫刻屋台と天棚 ㉑

天祭 (行事)

この行事の始まりについて、一説によりますと江戸時代中期、現千葉県の人に来て、板戸、下ヶ橋、芦沼などへ「天念仏」として伝えていったと言われます。その方法は近くの小高い山に地域の人々が登り、木や竹を切つて棚を作り、しめなわで回りをかこい、5-6mの梵天を立て、棚にはお供えもち・酒・野菜などを供えて、願文を唱えながら天棚のまわりを何回も回ります。風雨順調・五穀豊穡などを太陽にお祈りするもので、天明の大飢饉以降特にさかんになり、この方法は県北や茨城県では今も行われているそうです。河内地区をはじめ県央では、いつ頃からか天棚は家形となり、屋台と同じように彫刻で飾られ豪華になりました。現在見られる天棚による天祭行事も山で行われるのとはほぼ同じです。神式は「天祭」仏式は「天念仏」などと呼びますが、神仏混合が多いようです。白装束の御行様による「御来迎」は、河内地区では長年行われていません。高根沢では今でも毎年行われています。

科学の発達した現代でも、天災のない平穏な世の中であるよう、祈る思いは今も昔も同じようです。

住吉 晴



高根沢町石末宿天祭(御来迎)